

「これからの
問題として――
では、真の現実に基づく個人
組織体としてのサークルを考え
ゆきたいと思えます。」

今後の発展のために

—はじめに—

ついで話し合いが持たれたと

紅蓮をくり返してきました。

—その現状—

改竄の關係を、付き合ひ方、

1

き、前述のようになリ、クハに……
 ことができた、数の試行錯誤を
 重ねながら、今日できた、今々
 ずつ毎日毎日、同じで……返
 して……の……で……ある人
 だ……サッカルを、身体
 の懸念の場でもと写真を
 だ……で……な……な……
 り、樂……な……の……
 を……で……な……、現象は
 き……の……甘……ま
 へ。な……の……あ……ま
 せん……と……確……な……な……
 甘……な……な……な……
 な……な……。しかし、真に現象
 に……は……な……その
 中で生きて……る……生……
 る、人間は、そんな言葉は、吐か
 な……な……か……思……人
 が、な……な……、き……
 と……する時、それ……い……極
 めて、観念的であり、大人の言葉
 で……な……の……
 生……る……人間は、そのき……
 な……の……に……き……い……か……の……な……
 う……な……な……な……か……あ……
 ゆる彼の言葉で、ゆがんだ顔で、
 それ……た……と、言葉としての言葉
 にな……な……も……非……常……にリアルなも
 のを私達に感じさせるものだと思
 います。そこに、確かに現象は
 存在しています。その人間も存在
 しています。私達に時の存在を知
 らしめるのは時のゆがんだ顔の中
 から表出してくる彼の極めてリア
 ルな行動なのです。写真も、サッ
 クルも、私達が、常にそのように
 あるべくあらわなければならないので
 す。真の現象にぶつかると……

も合宿があり、学校祭がありとい
うように。しかし、一躍現代的に
物事を考えるならば、四月の段階
で、半年後の、一年後のいのち
のプランがよくたてられたものと不
思議に思う仕方がありません。
因故なら、私達の状況は、逐次変
化しています。現実的に物事を考
えようとした人は、変った現象に
対しての新しい方法論を考えま
す。それは、端にいたるまで戸
田日のプランをたててみてはな
たとしても、明後日のプランをた
ててみるのは、不可能なことでは
す。それは、明日のプランは今日
の積を把握してからにしないと
てゐることが出来、明後日のプラン
は、明日という日を如何に生かす
か、生きたかという積累に基づい
て決定されるからと。これが
らの、例会等について考えたこと
と思います。今までの例会では、必
ず講師を呼び、サークル員作品
を批評してもらうだけの例会でし
たが、例会のものには、私達が最
も大切にしている写真を用いてな
されるので従つて非常に大切な
内容が、現世当面している問題が
最も鋭く表われているのです。
このような例会によられる講師
は、最も鋭く表出している

の活動を、具体的にこなしていかねばならぬ。その活動は、合宿という方法論を有することのできる合宿でなければならぬのです。それは、サークル全部が、合宿を機に変革できる合宿であらねばならないということです。合宿したことによって、問題が明確になり一人ひとりが今後の活動のプランを有し、そこから次の問題を生み出すことのできるような合宿でなければならぬのです。このような日程を計画することは、単に合宿の日程を、四泊五日か、五泊六日の目標を、四泊五日か、五泊六日とかという議論をするのではなく、サークルの員、全部が今の問題把握できるのは、何日有するか、まず第一日は……、二日目は……一日目の状況をみてつづいた方がよい」という一層日程決定までの過程について、現状の細密な論議と、分析によってなされるものであつて、画一的なプランなどは、決してできないのです。

学校祭もまた然りです。学校祭があるから展覧会もさうとうといふ画一的な、昔から変わらぬものない考え方は、サークル全体を発表せしめる、変革せしめることには決してなり得ないのです。そこに必然性が存在しないのなら、学校祭に参加してもいいのです。

学校祭そのものが何なのか、そのことの把握なしに展覧会をやってもやらなくても決定されないのです。あまりに毎学年同じことがくりかえされてきました。昨年一昨年、学校祭に参加したことは私達に体何らかの意味をもたらしたのでしょうか。ここで今、私達は立ち止まって考える必要があると思ひます。

(2面) (つづく)

魚眼から超望遠まで、ズバリ揃った24本のタクマー交換レンズ群。あらゆる特殊撮影を可能にしたアクセサリーの数々。ペンタックスはシステムカメラとして完ぺきです。さらにアフターサービスも万全。カメラを買うならペンタックスだといわれている理由です。

 **ASAHI / PENTAX**

問題点

存在するのであり、それは、とりもなれず自己の正確な認識の方法となり得るものなのだ。次に問題になつてくるとは、政治性のことである。モノユコ紛争でコミュニストと共同戦線を結ぶのだが、その終結とともにその関係が消滅し、『政治からの独立をとりもどす』のだが、どうして独立をしなければ、といふより、はたして独立することによって彼等は自分達の状況に対する方法は政治と無関係にしようと考えたのであつうか。思想はすべて政治に結びついてゆく。いや、そうあるべきか。それは、直接的に政治運動をやることだ、といふことではない。その問題をフルトンはどう考えているのだろうか。一九二六年、フルトンは『正当防衛』という論文で、『われわれは、ブルジョワジーの手からプロレタリアートの手へ権力が移行することを望みはするが、そうなるまでの間、われわれは完全なる自由のうちにあって、われわれの実験を続行したい。』と述べて、具体的な階級闘争に参加しない態度をとつてゐる。

シニールレアリストが、『生活を变える』といふことは、『世界を变える』ことにならざるべきであり、そうでなければ自己の革命もあり得ないであらう。

われわれが、『シニールだ。』といふ言葉を口にしたとき、次のようなことに気がなければならぬ。シニール、といふことは向も當つていない。そして問題にすべきは、シニール、といふイメージがわれわれにどのような

のびのびになつておりましたが、朝日の突然の「全日コン中止」の申し入れによつて十月十三日急ぎ開かれました。

この会議に於いて、朝日、電士、意見は「全日コン中止」に終始し、今年の全日コンの後援をおりました。

会議の記録よの披露書き
大東 元氏(朝日)
「六月中頃にユニバーシアード組総委員会より写真部門の話があつた。

シニールレアリストが、『生活を变える』といふことは、『世界を变える』ことにならざるべきであり、そうでなければ自己の革命もあり得ないであらう。

われわれが、『シニールだ。』といふ言葉を口にしたとき、次のようなことに気がなければならぬ。シニール、といふことは向も當つていない。そして問題にすべきは、シニール、といふイメージがわれわれにどのような

「私達は九月に入ってから、ユニバーシアードに全日コンを出品

[illegible]

1、開拓者の情熱

2、目撃者としての写真家

3、人間透視術——人物写真

各地区代表委員又は、本部出版局あて、お申し込み下さい

ユビ
ユ
王

マルドロールの歌

シュールレアリスム宣言

通ナ
底ジ
器ヤ
580 580

●呈凶齋目錄

東京都文京区春日1-1-6
振替・東京72442番 現代思潮社

●20世紀芸術思想の源流

ステイクリツ、ナタール、アマ
エ、スタイケン、ブラッサイ等寫
眞開拓時代の人人は寫眞に何を与
えたか、それをいかに志向したか
スミス、クライン、エルスケンが
彼等の現実に何を見だし何を考
へる會合で討論するのに最適。

マルキ・ド・サド／渋沢龍彦訳 全2冊
悪徳の栄え
 芸術かワイセツか——一審で無罪、一審で有罪、いま最高裁で係争をつづけるサド文学の代表的大暗黒小説
 正4500円／続5000円

ユビユ王

△2版▽780円

A シヤリ／竹内健訳

ロートレアモン、ランボオ
と共にシュールレアリスム
に大きな影響を与えた世紀
末詩人が呪唱と戯笑によつて

▲7版▽550円
 「世界最端の文学」の最生
 端に位置する作品として、
 現代の言語芸術の遙かなる
 先駆となった残忍で華麗な
 エピソードを含む6節の序

アンドレ・フルトン
稲田三郎

ユールレアリスム宣言 950

一九六五～一九六六
"写真"の問題

A 僕は、昨年、今年、つまり、

66 西方のキャンペーンを

は、'65と'66の違いというの

なんていうか、'65は、僕に

て當時、かなりのシミックた

までの僕にとっての写真の意

というのかな、自分で写真撮って

たふたふと、それか一體と

となんかなかつたんだ。ところで

年の八ヶ岳のキャンペーン合宿

きのかして　そのすこいしき

つてきて、一ヶ月くらい、殆

何も手につかなかつたくらい

か、但ていふのたゞ、主の

分との関係を明確にする。写真

撮る自分を明確に位置づける

だつたと思つた。今更

みると、それは、まさに写真で

がをやつていくことの原則として

65

き、'66の今の僕らの問題が非常

はつきりしてくるんだ。たとき

云々」と云々の台詞にして、

数、写真の数、その内容、当然

こととして、合宿の方法、去

一人に散座の司かを与える上

うのかな、合宿に参加した人間

一人一人の問題を明確にする。

の80名の問題が、明かになる

かつたかというと、そうじゃな

んだ。

Aそう！確かに去年は、人数は

清江先生集卷之六

写真の意味・生き方
現実・行為・方法

A そねば、さらに、現実的な生き方をいふことにならうな。たゞ、写真を見るという行為は、ある生き方に対する自分の態度を決定することだ。ある生き方に對して、単にこの態度を肯定、否定することではない。それ、否定するには、具体的な彼自身の行為の次元でそれと答えるという考え方だ。それは、大變難かしいことだと思ふけれども、生きるってことはそんなことなんだ。

C 合宿でさ、生き方の問題のところで普通性について話したんだ。

A うん、普通性と個別性についてね。さっきもいっただろ、僕達は、写真というものを、僕自身と現実という相対的な関係とかなければならないんだ。でもさ、さう、成り立たせ方において普通性の問題があるんだと思う。そこでいう普通性というのはさ、自己と現実の関係だよね、それ自体が普通なんだ。要するにさ、僕達には、現実も変る、変ったものには、変ったことに於いて方針論を有しなければならないから、普通性というのには、関係の内容はみんな違ふということなんだ。二枚の写真をみんな違ふように君と僕は、違ふよね、何か何々で、君は、君のもっているもので、生き方、現実に対応してゆくわけは僕のも、さうと現実との関係のあり方は、同じなんだ。

B そうすると、こういう事かな。地球上に35億の人間が、個々の仕方できているよね、一見してそれぞれは、生きてるという事実を除けば、生きてることを別個のものとして、全然別個のことに見えちゃうね。たゞさ、個々の生き方の量的総体ともいふべき、最大公約数なんかなではなく、個々の生き方を包み含めるこの生き方、つまり、質的総体ともいふべき、35億の生き方を越えたところにある何かがある、それを呼べるものじゃないのかな。

さ、合宿の最後で決定的に僕達
欠けてる点が明らかにされたんだ
けどさ、『現実と行為と方法と』
考えるとき、絶対的に必要なこ
は、考える座標軸がなければな
ないんだ。それがないと、結局
自分というものがわからなくな
てしまうんだ。それは、巨視的
視野、とか、総体的視野という
業でいわれていたけど。

B 僕なんか全然感じちゃうな
自分でも時々、イヤになつてし
うことがあるよ。何かはじめる
すべ、一体こんなことをして何
なるんだろとか、何かがわか
たということは、わかったこと
わかつて……。という風にさ、
局、同じところをウロウロして
まうだけなんだ。

C 頭にかけて。全然、僕
んかほんとにそうなんだ。
A それは、やっぱり、自分の内
置を、全体的なところで把握で
ないからなんだ。見方がすごく近
根眼的になつてしまふんだなあ。

サークルの問題と
写真・組写真
B サークルの問題なんかもちろ
な。

キャンペー
「選択合宿」
昨日から今日にかけて、我々
は、まず短時間にながりの枚数
消化しなければならなかった。そ
こで、自分の頭は、まったく、ホ
ーとしてしまふ（睡眠不足も手
強い）ともすれば写真と機械的
消化してしまふとした。そこで、
自分は、まずこの要諦から脱け
なければならなかった。私は、自
分の前に出てくる写真を直視す
てからにはじめた。写真に向い、

だ。全体的なところでの把握がされないうちに、サークルというものを動かして、存在しないと思ふ。

A そうだな、それがなにより運動体として希冀的に、現実にする方法論的な有るべきでございぬもの。

B よくあるんだ。あのサークルでもってのことは、その内部での問題でしかなく、その中だけの問題にしてしまふだ。よく連盟のことなんかでもろんなサークルにいくけどうちクラブはこうだからという言い方で問題を発展させていくことにならぬにクラブの問題として閉じてしまふんだ。

A これからのサークルではもうそれは、通用しないんだ。もうそれは、通用しないんだ。別なサークルの問題を、発展させて、連盟の、あるいは日本の問題にするそれは、すなわち、普遍的な問題にするということなんでは捉えなければね。

B そうするとどこでどうやって今日からこれだけの写真と人々が集つてゐるんだから、そういうのいい機会になる訳だね、一旦、して、自分達のサークルの位置、明らかになる。

B 彼達のサークルなんか合宿で耕つてすぐこれからの対策をええな。合宿に参加したみんな実感として彼達のサークルの問題がどこにあるのか、みんなが感ぜられてこれが大変なんだ。

うであつた。この作業は、恐しう作業であつた。何となれば自分と直視しなければならぬといふことは、自分の妥協の上に成立している生活を確認せねばならぬかつたから、自分が癡病者であり、卑怯者であり、敗北者であることを認めねばならぬかつたから。しかし俺は、敗北者で終りたくない。だから写真を見直し、自分の心を写すといふ鏡の上に写し出しているうとした。そこで俺は、自分の中に、二人の自分を見出した。一人は、自分の中、自分、もう一人は、社会の中に生きている自分、

「現実とは、甘くない、きびしいのだ」という感覚は、本来の自分から出てきたのじゃない、杜の中で自分の自分から出たものとしてこの俺は、その現実のきびしさには負けて退く自分の逃げ道を作っているのだ。そこに俺は、自分の中の自分、との矛盾を見かけ、その矛盾の距離をうめようとはせずに、上に布きれをけ、くしてこうとしていたのだ。この点で現在の俺は、この距離のあたりをうめるために何を為せば

し、問題に理性に對処する法と發展した方法論が感じられ、根本的の性格としての異議申し立ては受つていない、変えてはならないのである。なぜなら、一貫した反抗の態度こそ知識、唯の証なのだから。

サルトルは言う。「つまり知人は、彼の調査をあらゆる領域に對して行ない、思想においては何でなく、感受性においても自己をつくり変へようと試み、そして、彼が異議を申し立てるとすれば、それはもつと上層級から由來した世界のイデオロギイの表象であり、それを通して彼は「いつかのイデオロギイにも異議を申し立てますが、そのうちのものも、階級的イデオロギイといふものは、たとへ、どの階級に由來しよう、階級意識の境に満ちた混沌した代替物にはかゝらないからです。

中略

単称的普遍性に対するこの合法的作業は、抽象的なものなだけで行なうことが出来まいといふ間にも、支配的イデオロギイは出来事として現實化されています。支配的イデオロギイ明確限定された一個の總体としてよりも、むしろ個別的で時時變化する出来事の眞実を隠蔽する、たとへば、公害なら、スモークはこんなひどいというところを、東京のどんなひどいところを、そのまゝにうつすというふうなやり方ではなくて、そんなやり方は、ちつとも現實的じゃないん

の洪水の中で精一杯、可能なり、自己の疑問点を直視することである。『わからぬ写真の洪水をこの身体で受けとめなければならぬのだ。俺は、社会の中で自分をひびくつらねなければならないのだ。』とすれば押し流されようとする急流の中での自分を流れ向つて積極的に推し進めていかねばならないのだ。俺が頭で理解していた事を、昨日から今日にかゝる写真との對決は、疑問点を矛盾をより自分の問題として受とめる必要性を教えたのである

(岡西・小西)

「先験的。
二、作者のナガサキに対するものの態度は異議申し立てをいふに過ぎない。實した性格であるから、三、なぜなら私達はここでナサキの一枚一枚の写真について語っているのではないから。
四、先に、原則を個々の対象のまづは、一人の人間き方は人間の普通の生き方から抽象概念の一つの例外（これは特殊な二例）なのだから、五、意識に現われるイメージの元的高低はあるまい。
例えは、私が冷蔵庫を開けた時ジュニウスを認めたとする。（意識の①）私はジュニウスでなくユーラやみたいとする。（意識の②）ユーラがないからジュニウスを認めたとする。（意識の③）
局、私はジュニウスを飲む。実上の行為）ここに現われた意識の、それが行為に直接的な間接的の善はあるが同次の元での意識である。すなわち、イメージとなる。その次元で、イメージに高低はない。ただ、イメージは人によって異なる。」

「そんなことは、誰でも知っているし、知らない人そんな事をしても何にもならない。」

「そんな捉え方じゃなしにしてな、ていつのか、まさに、彼肌で感じた何かなんだ、そして、肌で感じたことを、その底に潜んでいる（？）までもつづめておちていく、ていつのか、な……」

「深い洞察力のようなもので、ええんじやないんだな。それは、確かにいい写真だけれど、とによって、写真に、貫したイメージを、決定的なイメージを、り立たせることは、欠けていないだ！」

「B ウーン。それは写真ばかりやないな、生きるといふことについてにおいて大切なことは決定的なことなんだ！」

わ 一 本 語 生 といふ 欺 三 事 結 び 一 欺 一 人 といふ 欺 三 事 結 び 一 欺 一 人 といふ 欺 三 事 結 び 一 欺 一 人

